

資産価格の実証分析／金融経済論 II 第 2 回宿題

祝迫得夫

配布： 2008 年 10 月 28 日（火） 提出： 2008 年 11 月 11 日（火）

提出方法

- A. ICS 金融共同研究室もしくは経済研究所教官秘書室に、業務時間内にハードコピーを提出.
- B. 宿題提出用のアドレス (tiw1@ier.hit-u.ac.jp) に、Word か PDF ファイルで提出. 締め切りは 11 月 11 日 23 時 59 分発信.

1. 前回の宿題で使った時系列のデータのうち BG を使います.
 - (a) BG から平均を引いて 2 乗した系列を作ってください. これを SQBG と呼ぶことにします. SQBG について AR モデルを推定し, BG のイノベーションには系列相関があることを確認してください.
 - (b) BG の系列について GARCH(p,q)モデルを推定してください. ラグの次数 p と q を, どのように決定したかについて説明してください.
 - (c) [余裕があれば] BG の系列についてレバレッジ効果を取り入れた GJR/EGARCH 等のモデルと GARCH-in-Mean モデルをそれぞれ推定し, レバレッジ効果やボラティリティ・フィードバック効果が統計的に優位に存在するか検証してください.

2. 配布された論文（基本的に第 4 節と第 5 節だけで十分です）を読んで, そこでの分散比検定の使い方について議論してください. より具体的には, 自分が学術雑誌のレフェリーとして論文を読む事を依頼されたと考えて, 著者に対して論文の不明確なところ・間違ったところを指摘したり, 改訂してより良い論文にするにはどう修正したらいいかをアドバイスする, レフェリー・レポートを書いてください.